参考資料

1　「世界エイズデー」について

12月1日は、世界エイズデー。1988年に世界保健機関（WHO）が12月1日を”World AIDS Day”（世界エイズデー）と定め、エイズに関する啓発活動等の実施を提唱しました。その後、1996年から国連合同エイズ計画（UNAIDS）がこの活動を継承しています。

日本でもその趣旨に賛同し、12月1日を中心に全国各地で様々なイベント等が実施されています。

2　理解と支援の象徴「レッドリボン」について



1990年ごろ、アメリカで演劇や音楽などで活動するニューヨークのアーティストたちにもエイズがひろがり、エイズで亡くなる人々が増えたことから、そうした仲間たちに対する追悼の気持ちとエイズに苦しむ人々への理解と支援の意思を表すため、「レッドリボン」をシンボルにした運動が始まりました。

「レッドリボン」は、エイズに関して偏見をもっていない、エイズと共に生きる人々を差別しないというメッセージです。

3　HIVとエイズの違いについて

HIV感染者	：	HIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染しているが、潜伏期間内で症状が無い方 ※症状はありませんが、他人に感染させる可能性があります。
エイズ患者	：	HIV感染によりエイズ特有の症状を発症した方 ※HIV感染後、数年～10年以上の潜伏期間を経て症状が現れます。

※　HIV感染は、コンドームを適切に使用することで予防することができます。
また現在では、HIVに感染しても、早期発見・早期治療によりエイズの発症を防ぐことができ、HIVに感染していない方と同等の生活を送ることが期待できるようになっています。

4　名古屋市のHIV(エイズ)検査体制

HIV感染を判断できるのはHIV(エイズ)検査だけです。名古屋市では市民の皆様が受検できる無料・匿名のHIV(エイズ)検査を実施しています。検査日時等の詳細は、下記のなごやHIV・性感染症ガイド（市公式サブサイト）をご覧ください。

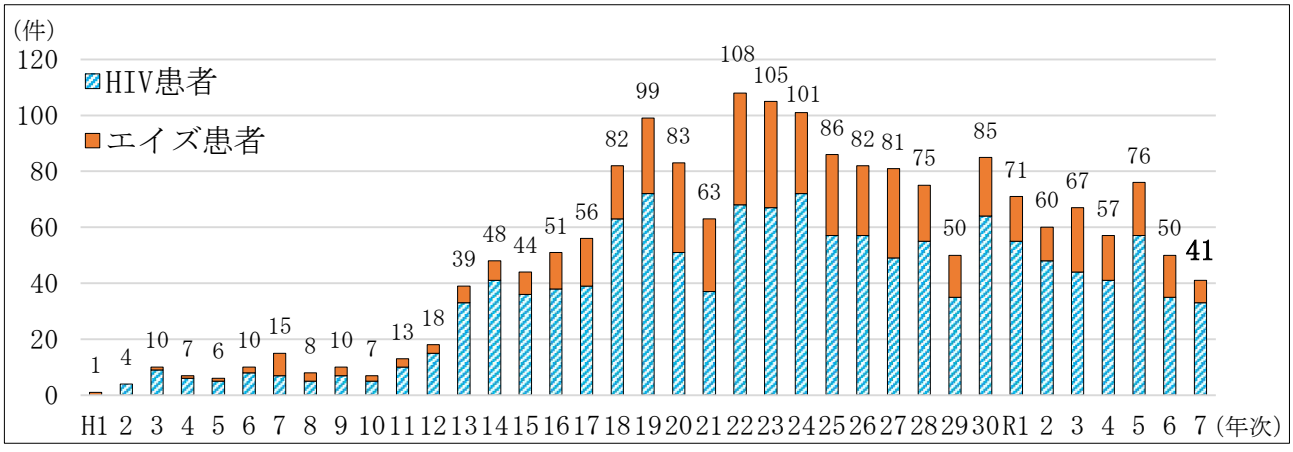
5　なごやHIV・性感染症ガイド（市公式サブサイト）

エイズや性感染症の現状、予防、検査及び治療などについて、より詳しい情報を掲載しております。

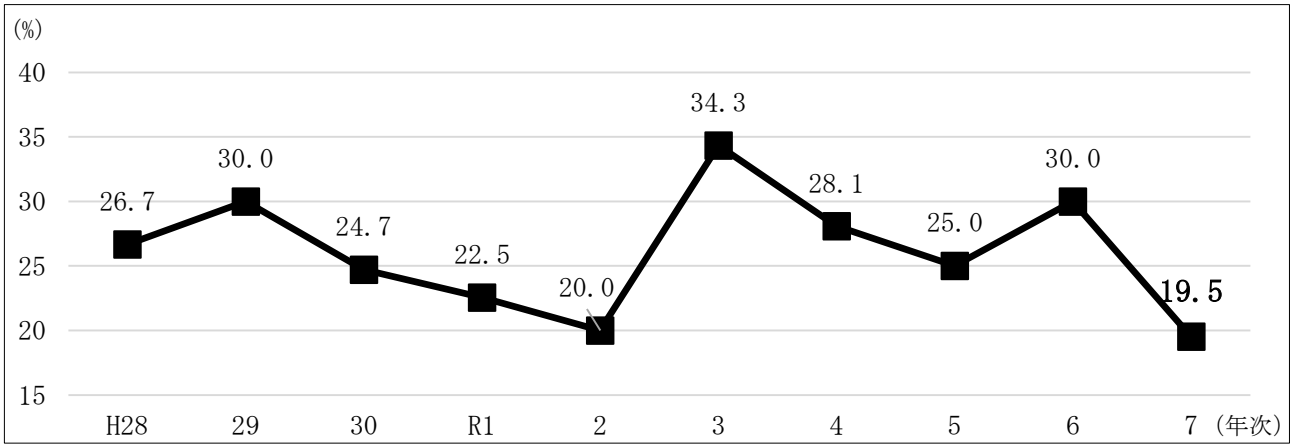
検索エンジンから、なごやHIV・性感染症ガイドで検索、または右の二次元コードを読み取ることでご確認いただけます。

6　名古屋市におけるHIV・エイズ発生動向

（1）新規HIV感染者・エイズ患者報告件数の推移（名古屋市）

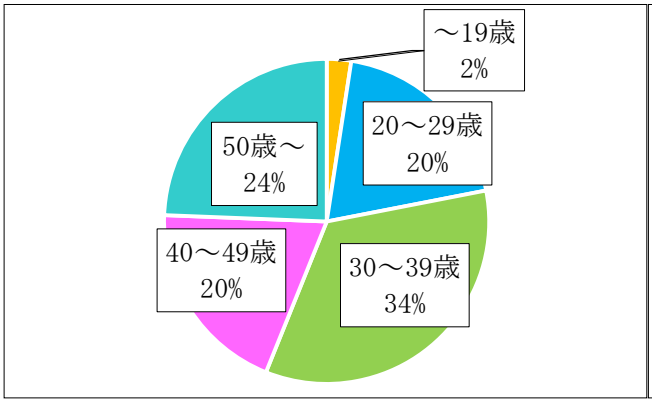


（2）「いきなりエイズ」割合の推移（名古屋市）

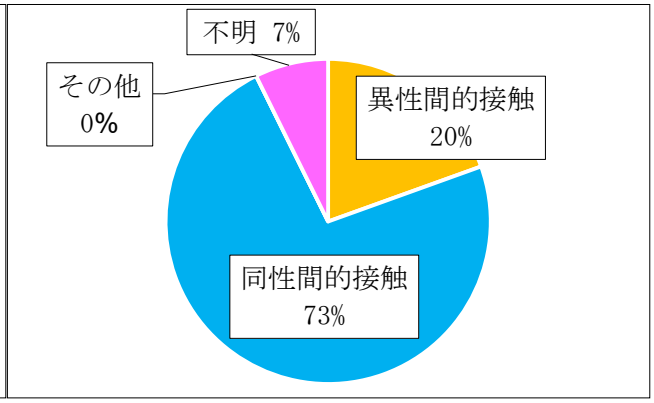


※いきなりエイズとは、エイズを発症して初めて感染に気付いた人。

（3）HIV 感染者・エイズ患者報告数
年齢別内訳（令和７年次 名古屋市）



（4）HIV 感染者・エイズ患者報告数
感染経路別内訳（令和７年次 名古屋市）



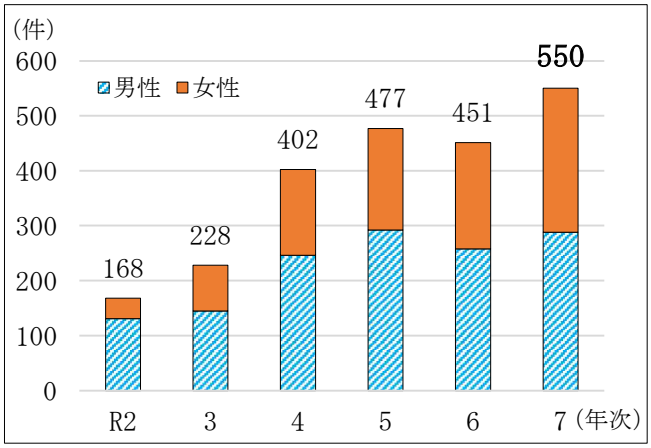
※異性間性的接触かつ同性間性的接触は同性間性的接触として計上した。

7　梅毒について

梅毒は、性的な接触（他人の粘膜や皮膚と直接接触すること）などによってうつる感染症です。原因は梅毒トレポネーマという病原菌で、病名は症状にみられる赤い発疹が楊梅（ヤマモモ）に似ていることに由来します。感染すると 10～90 日程度で性器の初期硬結（しこり）や硬性下疳（潰瘍）等の局所病変を生じます。３～６週間で自然に治癒しますが、放置すると４～10 週間後に全身に発疹が出現し、治療せずに数年経過すると、神経梅毒や心血管梅毒等の臓器病変がみられます。

早期の薬物治療で完治が可能です。検査や治療が遅れたり、治療せずに放置したりすると、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすことがあります。時に無症状になりながら進行するため、治ったと思い込んで途中で治療をやめてしまわないようにすることが重要です。また完治しても、感染を繰り返すことがあり、再感染の予防が必要です。

男女別梅毒発生件数（名古屋市）



8　名古屋市の梅毒の発生状況

梅毒の発生件数は全国的に増加傾向にあり、特に令和４年以降は年間 10,000 件を超える報告が続いています。

名古屋市においても同様で、令和４年から高水準のままであり、令和７年の発生数は、過去最多の報告数となりました。